Gastro-Health Now

認定ＮＰＯ法人
日本胃がん予知・診断・治療研究機構
Certified Non Profitable Organization
Japan Research Foundation of Prediction,
Diagnosis and Therapy for Gastric Cancer (JRF PDT GC)

目　次

◆ 胃がんの死亡統計から考える胃がん対策 …1
◆ あとがき・お知らせ……4

印刷　城南印刷工芸(株) 03-3752-3391

発行所　認定NPO法人
日本胃がん予知・診断・治療研究機構
〒108-0072
東京都港区白金１丁目17番２号
白金タワーテラス棟 609号室
電 話　03-3448-1077
FAX　03-3448-1078
E-mail : info@gastro-health-now.org
http://www.gastro-health-now.org

2020.12.1
第67号

胃がんの死亡統計から考える胃がん対策

京都先端科学大学　健康医療学部
渡　邊　能　行

はじめに

同じ題名でGastro- Health Now [1] に投稿させていただいて、10年が経過するので、その後の10年の胃がん死亡統計を追加して、21世紀が20年を経過した現在における胃がん対策についての改めて私見を述べてみたい。

約5万人と横ばいであったわが国の胃がん死亡者数もようやく減少に転じた

わが国の胃がん死亡者数を顧みると、図1に示すごとく1950年には31,211人であったものが、年々増加し、1973年に初めて5 万人を超え、その後、1982年～1994年に47,000人台までの軽度減少を示したものの、1995年に5万人台に戻ってからは横ばい傾向であり、2010年まで50,000人台であった。2011年からは毎年減少傾向を示し、2018年には44,192人まで減っていた。図には示していないが2019年の速報値では42,931人であり、この減少は有難いことに継続しているようである。

同じく図1に示している昭和60年モデル人口を基準人口とした年齢調整死亡率（人口10万対）では男性では1958年の98.3、女性では1959年の51.9を頂点として、男女とも一貫して減少傾向にあり、2018年においては男性19.7、女性7.4と男性で1/5、女性で1/7にまで減っていた。がん対策の基本は死亡者数を減らし、その死亡率を減少させることであることは周知のことである。21世紀初頭においては、胃がんについては年齢調整死亡率が減少傾向にあるものの、死亡数については充分な減少が認められないという乖離があったが、最近10年間は死亡者数もしっかりと減少が認められるようになってきていた。

現在では65歳以上の高齢者が胃がん死亡の9割近くを占めている

5年ごとの年齢階級別胃がん死亡数の推移を図2に示す。特徴的なことは、年々高齢者の占める割合が増えてきており、65歳以上の高齢者の割合は1950年の40.3%から2018年の89.1%に倍以上に増加しており、この割合は年々増加してきている。なお、2018年の胃がん死亡者のうち65-74歳の前期高齢者は24.2%を、75歳以上の後期高齢者は64.8%を占めていた。

図１　胃がんの総死亡者数と性年齢調整死亡率の推移

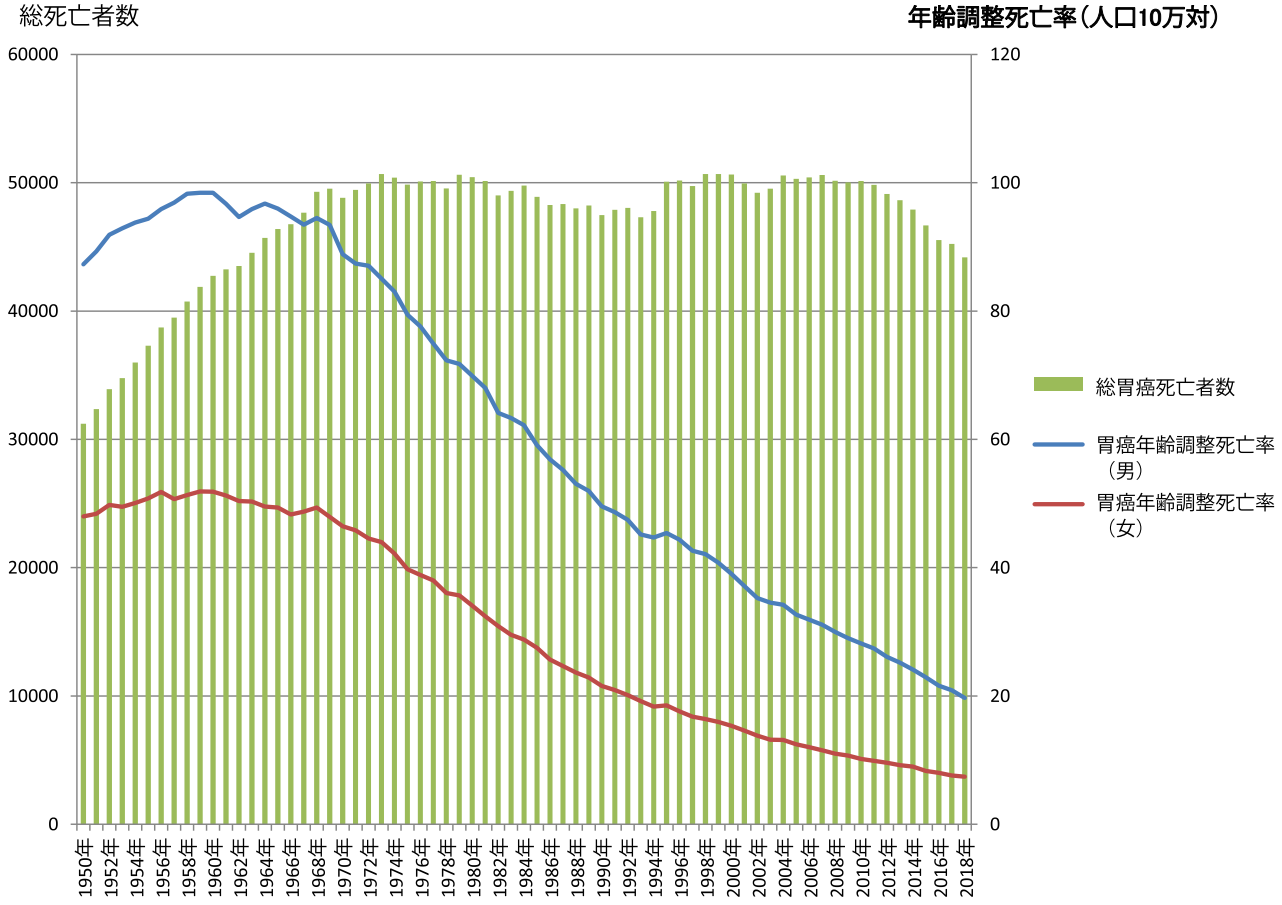


図２　わが国の年齢階級別胃がん死亡者数の推移

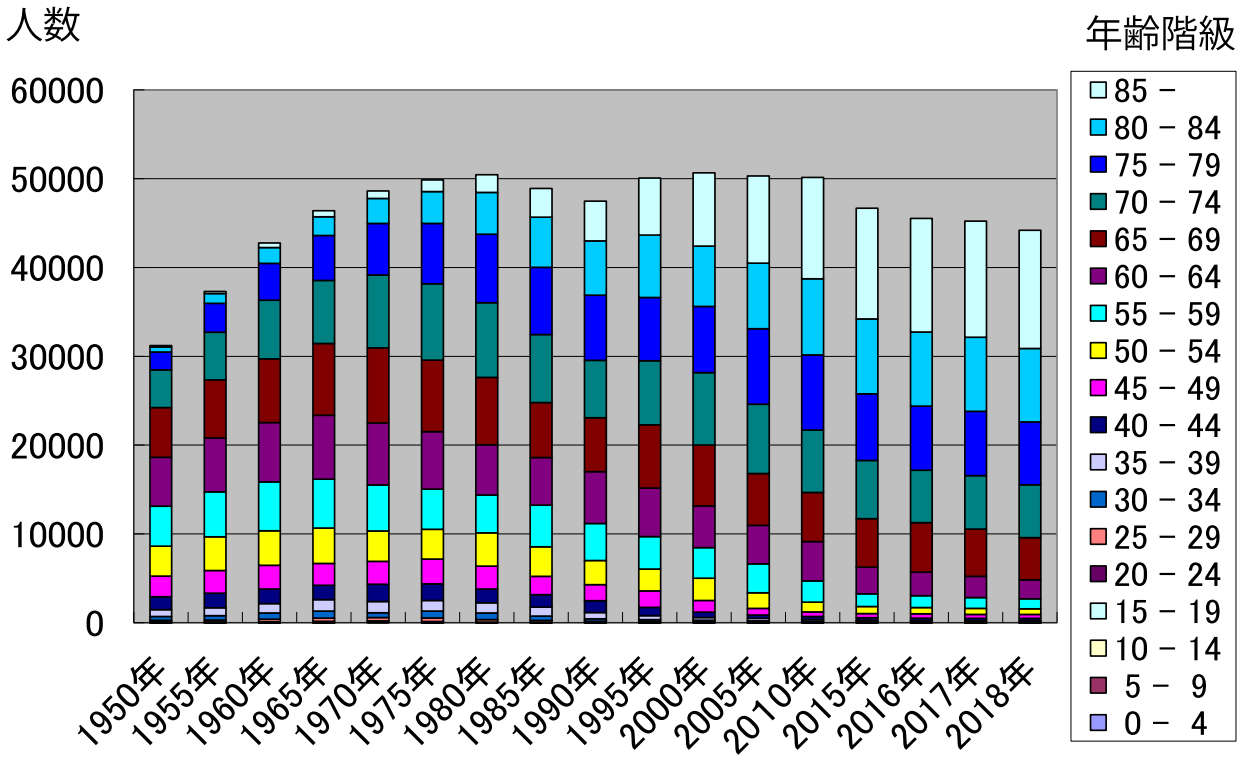
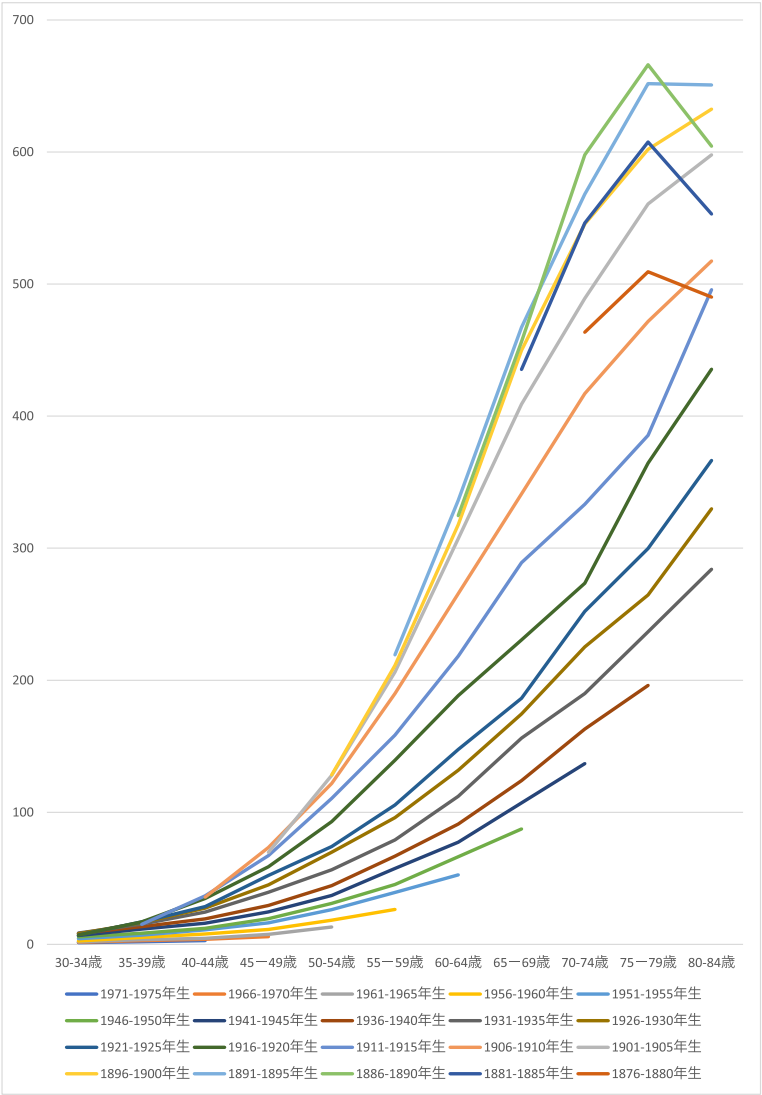


図3　出生コホート別胃がん年齢階級別死亡率（男性）



出生コホート別胃がん年齢階級別死亡率

男性の出生コホート別胃がん年齢階級別死亡率を図3に示す。出生コホートとは同じ出生年のグループのことであり、1971-1975年生、1966-1970年生、・・・、1876-1880年生というように同じ5年間の出生者をまとめている。1886-1890年生、1881-1885年生、1876-1880年生の3つの出生コホートでは80-84歳の胃がん死亡率が75-79歳の胃がん死亡率よりも低率となっているが、1891-1895年生のコホートの各年齢階級の胃がん死亡率が最も高く、この世代よりも後で生まれた出生コホートほど各年齢階級の胃がん死亡率が低くなっており、新しい世代ほどピロリ菌感染率が低いことと合致している。なお、この傾向は女性でも同様である。

これからの胃がん対策

10年前までの胃がん死亡統計と異なっていたのは、約5万人と横ばいであったわが国の胃がん死亡者数もこの最近10年間でようやく減少に転じたことであった。これ以外についての動向には大きな変化はなかった。

高齢者の胃がん死亡者数が増えて、若年世代の胃がん死亡者数はむしろ減少していることは望ましい推移である。出生コホート分析で示したような若年世代での胃がん死亡率の減少はヘリコバクタ・ピロリ菌感染率の減少に大きく依存していることに加え、生活環境や食習慣の変化、診断と治療といった医療の進歩、そして部分的には胃がん検診の影響もあった推移と推察されるが、この推移をさらに推進することが必要である。

働き盛りの40歳代や50歳代の胃がん死亡者を現在以上に減らす必要があることには異論がないであろう。死亡者数は相対的に少ないが死亡すると家庭に多大な負担を課すことになる40歳代や50歳代の胃がんをかかりつけ医の健康管理として濃密に計画的に管理することが必要である。他方で死亡者数が相対的に多い高齢者の胃がん死亡に対しては、特に全胃がん死亡者の約1/4を占める余命も比較的長い65-74歳の前期高齢者をターゲットとした取り組みが必要である。

おわりに

以上のように世代の現状に応じた、アクセントを変えた取り組みをすることが肝要であり、地域や職域において、いわゆるorganized screeningを推進する必要がある。

文　献

1）渡邊能行.胃がん死亡統計から考える胃がん対策. Gastro- Health Now2010；9：1-3.

あとがき　　本67号は、京都先端科学大学健康医療学部　看護学科教授、健康医療学部長、京都府参与の渡邊能行先生による「胃がんの死亡統計から考える胃がん対策」のご寄稿で、同じ題名で、2010年9月GHN 9号に掲載されたテーマですが、その後10年の胃がん死亡統計を追加して、現在における胃がん対策について、先生のお考えを述べていただきました。また、この全内容は、「第12回白金カンファレンス」特別講演Iでご発表いただいたものです。本稿の要旨は、「①我が国の胃がん死亡者数は5万人を下回って減少に転じていること　②年々、高齢者の占める割合が増えてきており、現在では65歳以上が胃がん死亡の9割を占めていること　③若年の出生コホートほど、各年齢階級の胃がん死亡率が低くなっていること　④これからの胃がん対策は、40、50歳代の胃がん死亡者をさらに減少する必要があるとともに、余命が長く元気な前期高齢者をターゲットとした取り組みが必要であること」などであり、死亡統計というエビデンスに基づいてご報告いただきました。今後の胃がん対策に大変有益な指針になることと思います。

コロナ禍で大変ご多忙にもかかわらずご寄稿くださり、編集部一同、心より感謝申し上げます。　(M)

胃がんリスク層別化検診（ABC検診）

群分類		A群	B群	C群	D群	E群（除菌群）
ABC法(5)	ピロリ菌抗体価(6)	−	＋	＋	−	胃がんリスク層別化の対象外　(4)
	ペプシノゲン値	−	−	＋	＋	
胃粘膜状態の予測		胃粘膜萎縮はない	胃粘膜萎縮は軽度	胃粘膜萎縮が進んでいる	胃粘膜萎縮が高度	長期経過で胃粘膜萎縮が改善傾向
胃がんの危険度		低 →			高	除菌で胃がん発生リスクが34%低下　(3)
1年間の胃がん発生頻度予測		ほぼゼロ　(1)	1000人に1人　(1)	500人に1人　(1)	80人に1人　(1)	500人に1人　(2)
胃内視鏡検査		原則勧奨せず(7)	定期的胃内視鏡検診、および専門医受診を勧奨			
ピロリ菌除菌		不要	他のピロリ菌検査陽性なら必要			除菌不成功例は必要

(1)GHN（Gastro-Health Now）1号. 2008.1.1　(2) Kamada T et al, *Aliment Pharmacol Ther* 21: 1121, 2005　(3)日本ヘリコバクター学会ガイドライン2016改訂版　(4)GHN増刊号. 2016.9.15　(5) Miki K. *Proc Jpn Acad Ser B Phys Biol Sci* 87: 405, 2011　(6)ラテックスキット（GHN58号. 2019.5.1）　(7)自覚症状のある人、過去に画像診断を受けたことがない人は医師と相談（GHN 22号: 2012.10.1）

認定NPO法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構（2019年6月）

事務局より　お知らせ

■ **令和２年度　ご支援のお願い**

令和２年度も引き続き胃がん撲滅に向けて活動して参ります。みなさまのご支援をよろしくお願いいたします。

【寄附および賛助会費】令和２年度（令和２年４月１日～令和３年３月31日）

賛助会費（個人）1口 3,000円　　賛助会費（法人）1口 30,000円

当機構は平成25年5月29日に認定NPO法人になり、ご寄附に対し税制上の優遇措置がございます。一昨年度東京都より、当法人の賛助会費には任意性があり対価性がなく寄附金として差し支えないとの判断をいただき、本年度も賛助会費も寄附金同様の税制上の優遇措置を受けられます。賛助会費・寄附金を納入いただいた方には順次証明書類を発行いたします。

■ **お振込み先**

＊三菱ＵＦＪ銀行　目黒駅前支店　普通預金 No. 0008527
特定非営利活動法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構 理事長 三木 一正
＊郵便振替　00130-9-429200　日本胃がん予知・診断・治療研究機構

☆お振込の際、ご親族・職場等、複数の会員様でまとめる場合は、お手数ですが払込取扱票の通信欄に全員のお名前をご記入下さい。

■ 転居・所属変更・退会希望等は、お早めにFAX・メールにて事務局までお知らせ下さい。

認定NPO法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構
電話　03-3448-1077　FAX　03-3448-1078　E-mail : info@gastro-health-now.org